大都市近郊の平城ニュータウンにおける学外実習

小 松 原　　尚

実習の概要

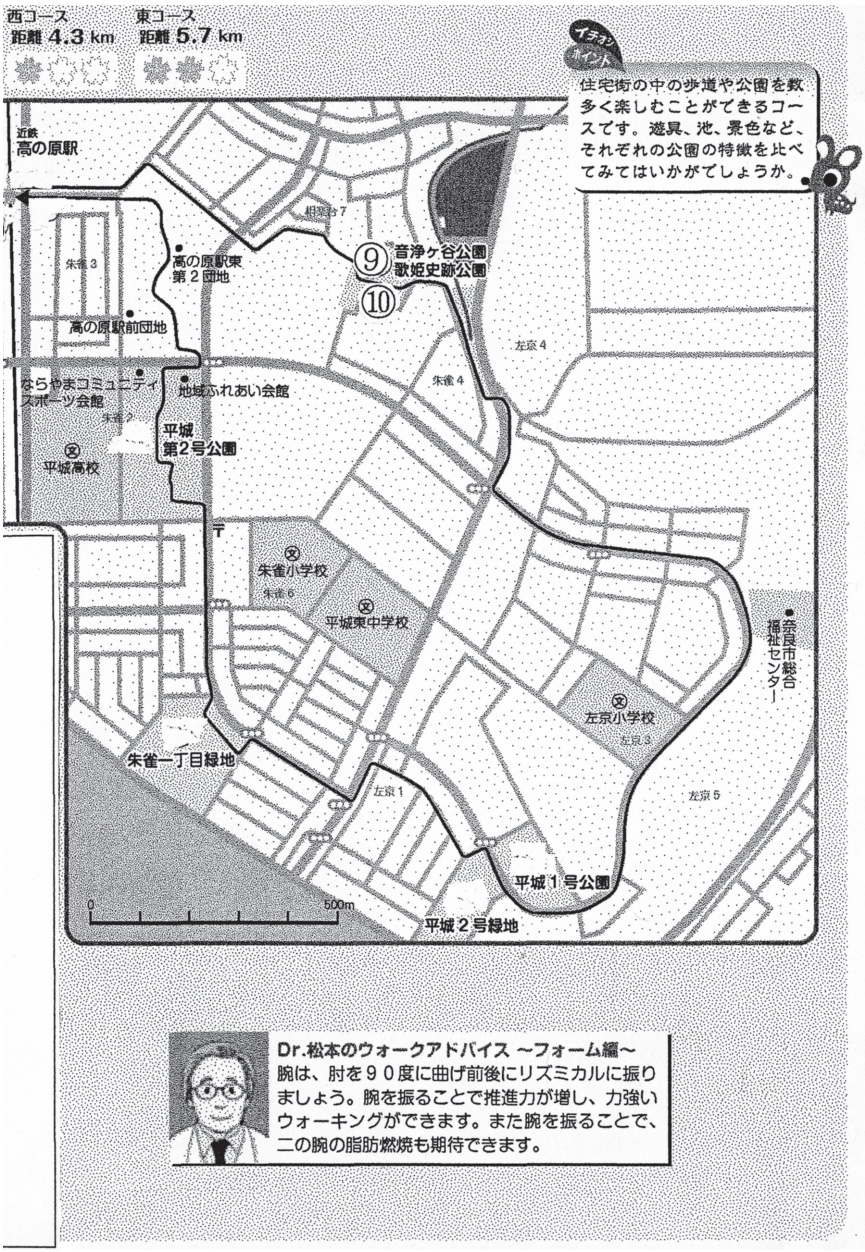
2018年４月12日（木）の３限と４限を利用して、地域経済コモンズゼミⅠ選択の者（２年次生）を対象に「都市公園と古墳のある平城・相楽ニュータウンを歩く」をテーマとして学外実習を実施した。地域経済コモンズ教員も、他学年のゼミ実施に支障のない範囲で、安全指導にあたった。本時活動の目的は、①大都市近郊のニュータウンの状況について都市公園を巡りつつ観察する。②奈良県（奈良市）と京都府（木津川市）の境界域を確認する。③地域経済コモンズの関連科目やこれまで自らが地域創造学部で履修した諸科目の授業内容と活動内容との関連性を考えることにおいた。

活動にあたっての注意事項として、必ず予め決められたグループで一緒に行動すること。実習中は特に安全に留意すること。また、閑静な住宅地であるので、静粛に移動することを求めた。参加教員は安全指導に重点をおき、訪問箇所への誘導は行わないこととした。

活動は奈良市保健所健康増進課の2008年作製になる「奈良ウォーキングマップ 其の弐」の12-13ページ掲載の「公園緑地めぐり 高の原コース」を参考に立寄確認地点設定した行程地図を作製、その中から④と⑨は必ず含めて５か所以上訪れるラリー形式とした。学生たちには上記の条件を踏まえて、グループで相談して、時間内に効率よく回れるようにコースの設定は考えておくように指示し、無理のない行動計画を作成することとした。そして、後日、学生には予め設定した書式に基づいた活動報告表として提出させた。その構成と報告の内容を以下に掲載する。

立寄確認地点

①平城右京団地の石標
②神功一丁目緑地
③万葉の古道
④神功四丁目緑地
⑤平城４号公園
⑥平城３号公園
⑦平城第２団地の赤い屋根のインコの家
⑧サプライズィング下水道
⑨音浄ヶ谷公園
⑩歌姫近隣公園


西コース
距離 4.3 km
東コース
距離 5.7 km
ポイント
住宅街の中の歩道や公園を数多く楽しむことができるコースです。遊具、池、景色など、それぞれの公園の特徴を比べてみてはいかがでしょうか。
近鉄
高の原駅
相楽台7
⑨
音浄ケ谷公園
歌姫史跡公園
⑩
高の原駅東
第２団地
朱雀3
高の原駅前団地
左京4
朱雀4
ならやまコミュニティ
スポーツ会館
地域ふれあい会館
朱雀2
平城
第2号公園
平城高校
朱雀小学校
朱雀6
平城東中学校
奈良市総合
福祉センター
左京小学校
左京3
朱雀一丁目緑地
左京1
左京5
平城１号公園
0
500m
平城２号緑地
Dr.松本のウォークアドバイス ～フォーム編～
腕は、肘を９０度に曲げ前後にリズミカルに振りましょう。腕を振ることで推進力が増し、力強いウォーキングができます。また腕を振ることで、二の腕の脂肪燃焼も期待できます。

学外学習活動報告表

学籍番号	氏名	活動テーマ
		都市公園と古墳のある平城・相楽ニュータウンを歩く

活動日時	活動日	時間	合計時間（分単位）
	月　　日	時　　分から 時　　分まで	

グループワークの同行者の氏名	
①	②
③	④
⑤	⑥

到着時間	出発時間	地点番号	活動内容（なにを観察し、何を学んだか）
：	：		
：	：		
：	：		
：	：		
：	：		
：	：		
：	：		
：	：		
：	：		
：	：		

自分の勉学を進める上で参考やヒントになったこと

※　記入の分量によって適宜、各自で枠の大きさを調節すること。頁数を増やしても良い。

第１表　平城右京団地の石標での観察報告

報告番号	観察所見
0101	奈良側の団地が古く、団地周辺が坂であることが分かった。陸橋がやたらと多く、道を無理やりつなげていることが分かった。
0102	高の原駅を出てしばらく山道を歩いていきました。ニュータウンと聞いていたので、きれいに舗装された道を想像していましたが、かなりの山道でした。
0103	この石標付近は団地のたまり場になっている。団地の人だけではなく道を通る人とも話が弾むコミュニケーションの場だ。
0104	平城宮跡は奈良市にあり、平城京といえる範囲は奈良市のみだと思っていた。平城右京というのが京都府との県境にも位置する高の原まで至るものだとは知らなかった。
0105	団地の中に石碑があった。周囲は団地が建ち並んでおり、一戸建ては見られないエリアだった。数多くの住人が居住していると思われるが自販機などもなかった。住人の人は、駅近くにあるショッピングセンターまで買い物等は出掛けていることが想像された。
0106	石標を見て感動した。
0107	時間があまりなかったこともあり、チェックポイントだった石標は見つけることができなかった。団地は綺麗で、比較的新しい建物が多かった。団地内の公園には子連れの母親が多く集まっていて、にぎやかだった。子育て世代の交流の場として活用されていると感じた。
0108	石標が発見できなかった。第２団地とはうってかわって人気がなく一層静かだったので、高齢者や働く一人暮らしが多いのかもしれない。
0109	始めに見た平城第二団地やその他私がよく知る団地のイメージは碁盤の目のような区画だが、この団地は道がうねっており珍しいと感じた。石標は見つけることができなかった。
0110	上り坂の先にあった石標の後ろにあった小さな石の建物が気になった。
0111	少し坂になっている場所に団地があり、少し古びた団地であるように感じた。
0112	団地の間近を歩くことが普段無く気づかなかったが、団地の一階のベランダが、飛び越えれば入れるような場所にあり、何のセキュリティ対策もされていなかった。通常のマンションなら一階は住居スペースとして使わないことや、壁・柵が設置されているだろう思った。
0113	団地までの道のりがきちんと整備されており、木々によって住宅と隔離されているのが特徴的であった。外観は古くあまり綺麗ではなかったが、周りに自然が多く、閑静であった。
0114	４階建ての比較的小さな団地であり、すれ違う住民は高齢の方が多かった。
0115	閑静な住宅街で、マンションと一軒家が混在している。多くの木が植えられており、自然が意識されている。ランニング中のお年寄りの方を見かけた。
0116	子どもが自転車に乗っていたり、お年寄りの方がベンチに座って会話をしていたりと、日常的な空間だと感じた。
0117	周りが木々と集合住宅に囲まれていた。ベンチに座る高齢者や自転車に乗る少年などが観察でき、人々の憩いの場となっていってるようだった。
0118	ベンチ等休憩場所が設けられており、比較的高齢な方の姿をちらほら見かけた。上り坂の途中にあり、辺りは自然が豊かである。
0119	平城右京団地の石碑を見た。何か歴史があると思った。
0120	団地にあり、近くには街路樹に囲まれた一本道があった。
0121	石標に行くまでに平城右京団地内を歩いたが、木津市と奈良市とでは団地の作りが違ったり、柵が県境になっていたりと違いがあってとても面白いと思う。
0122	奈良側のUR住宅の建物の造りは、壁面の凹凸が多く窓の数が多くなる造りとなっていた。京都側のUR住宅の方が新しいように思った。北側の赤い通路は人通りが少なく、少し不気味さも感じた。団地内には季節の移り変わりを感じられる桜や百日紅、紅葉といった様々な木が植えられており、鳥の囀りもしばしば聞こえた。団地のまとまりごとに建物の屋根の色等が異なり、それぞれのコンセプトのもと都市づくりがなされていることがわかった。
0123	団地の内部にあり、内部には緑が多く植物がたくさん植えられていた。
0124	団地の敷地は広く、30棟を超える建物が集合していた。敷地はとても広いが荒廃している様子はなく、業者と思われる人によって掃除が行われていることが確認できたことから、ある程度の管理は行き届いていることがわかる。

0125	大きな住宅地、人のいる気配はなかった。
0126	イオンなどを通り抜けて目に入ったのは年季の入った団地だった。マンションが立ち並び、どこか寂し気で暗いその場所は反対側のイオンや他の団地と隔絶しているようだった。そのような雰囲気だからか、お年寄りが多い、という先入観が離れなかった。干されている洗濯物で判断しようとしたが、いまいちよく分からなかった。
0127	住宅街の様子は静かであまり人がいなかった。石標も見逃してしまうくらい地味であった。住宅街はほとんどが坂道であった。
0128	この場所もまた団地であったが、音浄谷公園周辺の団地に比べて少し古い。とてもしずかだった。

第２表　神功一丁目緑地での観察報告

報告番号	観察所見
0201	古墳がしっかりと保存されており、景観に気を使っていることが分かった。学術都市としての平城ニュータウンの側面があるのではないかと思わせた。
0202	少し道からそれて、数分歩いたところで見つけました。公園のような感じでしたが、特に遊具もなく空き地といった印象でした。
0203	ここには古墳がある。整然と並ぶ住宅街の中にこういった古墳を保存していることは住民にとって良い影響を与えるのではないかと考えた。
0204	少し広い芝生のスペースがあり、そこには古墳があった。古墳の名前はカラト古墳といい、被葬者は不明だが、豪華な副葬品があったようだった。あまり目立った場所ではなかったが、ゆったりできる地域であった。
0205	周りを一戸建てに囲まれた公園のようになっていた。真ん中に古墳があり登れるようになっていた。遊具などはなく子供の遊び場という感じではなかった。
0206	古墳をみて感動した。
0207	緑が豊かだった。
0208	坂が多い道であった。
0209	公園のような広場があるが、遊具などが一切設置されていなかった。ただベンチが設置されているだけで、緑地という名前だけにコンクリート造りで同じ形の建物ばかりが並ぶ機械的な街にオアシスのような目的の場所として作られたのか。
0210	一見ただの石畳のように見えたが、中央が盛り上がっており柵や標識も見られたため、歴史的価値のある場所だと認識した。
0211	石のカラト古墳があり、自然豊かであった。府県境の緑地であった。
0212	休憩所が存在し、緑地の周囲は木で囲まれている。周囲の建物はマンションが減少し、主に一軒家が軒を連ねている。緑地には誰もおらず、道中も人はほとんど見かけなかった。
0213	夫婦が子どもをつれて散歩をしていたり、ご近所さん同士であいさつを交わしているのを目撃した。一軒家が多く、大学周辺の住宅と比較すると、大きな住宅が多かった。また、どの住宅にも駐車場が設置されていたため、日常的な交通手段は車ではないかと予想した。
0214	老夫婦の散歩、立ち並ぶ一軒家、挨拶声掛け運動の紙が見られた。石のカラト古墳があるものの、その周りには何もない。
0215	上り坂の途中に作られている。これといった遊具はなく、古墳があり柵で囲われていた。人の賑わいは見られない。
0216	神功一丁目緑地に行った。古墳を見て迫力を感じた。
0217	古墳があり、緑の多い広場があった。
0218	この目的地まで行くまで、坂が多く、緑地はあまり整備されてない感じだった。しかしこの緑地の周りが県境になっていることに気づいた。
0219	団地を少し反れた道を辿って行くと突如、山の中のような空間に出たところに緑地があり、そこには周囲を柵で囲われた「石のカラト古墳」があった。緑地の入り口には古墳と表記したものは無く、一見何かわからなかった。団地の中にこのような古墳があるとは思ってもいなかったため、改めて、団地に囲まれたところであっても奈良は古都であることを実感した。

0220	石のカラト古墳と呼ばれる古墳が位置する。ニュータウン計画後も残り続ける様子から古都奈良を感じた。
0221	広場があった。
0222	歩道と道路が明白に分けられているのが印象的だった。一般的なものなのかもしれないが、初めて見る仕組みだった。交通事故を減らす仕組みとしては画期的なものだろうと感じた。
0223	緑地には休憩所のような場所があった。奥の方には古墳のようなものも見られた。住宅街は車や単車が禁止されていた。
0224	住宅街のなかにある緑地だった。ここも遊具等はなく、原っぱが広がっていた。こどもがボール遊びをする姿が目に浮かんだ。

第３表　万葉の古道での観察報告

報告番号	観察所見
0301	植物がたくさん植えられていたが、雑草も生い茂っており、管理が不十分ではないかと思われる。
0302	しばらく万葉の古道を歩き、大通りに出たところで発見しました。ここまで自転車道のような車が全く通らない道を通ってきただけに少し恐怖心を感じました。
0303	万葉の小径にはたくさんの万葉植物が植えられていた。歴史と調和した街づくりを感じた。
0304	万葉の小径には「万葉人の衣・食・住」「個々の植物と万葉人の思想や生活との関わり」などの万葉植物についての解説がされたプレートもあり、植えられた万葉植物を体感しながら歩けるようになっていた。
0305	住宅街の中を抜ける遊歩道であった。若干の下りになっていた。付近の家は大きめの家が目立っていた。高級車を保有する家も多かった。ここの地区に住む人々の生活ぶりを伺い知ることができた。
0306	趣のある道に感動した。
0307	ここも緑が豊かだった。
0308	地点番号１、２と比べると、少し大きい通りの道であった。
0309	万葉の小径という公園のような曲がった道。団地内のアスファルト舗装された道も並行してあるが、この道があえて作られているのには何かわけがあるのではないかと思った。これからの時期はこれだけ植物があると管理が大変だろう。
0310	京都の相楽郡に入った。色々な植物や木々が植えられており、季節ごとに楽しめる散歩道だと感じた。ずっと区画化された道だったので、曲がりくねった道は新鮮であった。
0311	植物ひとつひとつの紹介があり、周りの団地の人々の散歩道のようだった。
0312	山桜、ケヤキ等が植えられており、各植物の説明文が設置されている。付近に精華町の看板が設置されており、京都との境目となっている。３地点の外部には車道が広がっていた。
0313	曲がりくねった道であり、緩やかな坂であった。京都府との境。
0314	万葉の古道はグネグネとした下り坂で道の両脇に木が立ち並び、その先には住宅街が広がっている。この道を下った先で奈良と京都の県境が観察できた。
0315	坂を下ったところに位置する。古道と思われる坂は様々は草木が見受けられたが、手入れされている様子はうかがえなかった。
0316	自然豊かな道でした。
0317	くねくねした道があり、一定間隔に石標があった。
0318	全く整備されていない感じだった。奈良市はあまり整備などに力を入れていないと思った。
0319	アスファルトで整備された一般道から少し入った道に、多種多様な草木が植えられた憩いの場となるような小道があった。団地のようなコンクリートなどの人口物の多い地域では、自然と触れ合って植物などの知識を得られる場所が限られることが多いが、ここでは木の名前と特徴などが書かれた表示が立てられていた。住民が自然に触れて落ち着くことのできる機会を設けていると考える。

0320	見逃してしまいそうなところにあり、文字も現代の文字ではなく、古道を連想させる表記であった。
0321	この地点の周辺には様々な種類の植物が植えられていた。囲碁の碁盤の材料である桂、その他萩の木やアジサイなどが確認できた。この他の場所にも集合住宅内には多くの植物が存在した。これらは集合住宅を管理するURによる景観の向上を目的としたものと思われる。
0322	植物が植えられていて、丁寧な説明書きが施された石碑があった。
0323	植物の説明の看板がいくつかあった。ベンチがあり休憩できる様になっている。様々な植物が生い茂っていた。
0324	一瞬、分からなかった。そしてそこにある存在意義を私は理解することが出来なかった。様々な万葉集の花が咲き乱れている光景だったらまた印象も違ったかもしれないが、なんだかとても中途半端な場所だなと感じた。
0325	様々な種類の草花が生えていると思っていたが、実際は手入れが行き届いておらず雑草が生い茂るばかりだった。

第４表　神功四丁目緑地での観察報告

報告番号	観察所見
0401	こちらも一部草が生い茂っていたので、管理不十分のように思われる。近くに一戸建て住宅が広がっており、ある程度良い車などが止まっていたりした。
0402	このあたりから強い疲労感を感じるようになりました。学習のために歩いているのにも関わらずただただ班の方々と歩いていくのが精一杯になってきました。
0403	この公園には広い芝生エリアがあり、子供たちの遊び場として利用されていると考えられる。
0404	駅前や地点①から同じように住宅地が続いていたが、このあたりからその住宅に変化が見られた。一戸あたりの土地は広くなり、置かれている車は高級車に、家の様式は豪華なものになっており、西へ進むにつれ住民の所得層が変わっていた。
0405	周囲に空き地が多くまだ宅地分譲されてないことがわかった。道路を挟んだ反対側にスーパーなど小売店舗が多く目立った。
0406	芝の緑に感動した。
0407	住宅地の中にある小さな公園だった。遊具などの施設はなかったが、地域の人々で管理しているらしい花壇があった。地域の交流の場となっていると思われる。私たちが訪れた時には、ほかに人はいなかった。
0408	周辺には空き地が多いが、新しい家も数軒ある。学校や大通りが近いので、これから家が建って人も増えるのではと考えられる。ただ、駅からは距離があるので車のない人は不便に感じるだろうと思った。
0409	この辺りには珍しく小さな公園だった。何か変わったことといえば「絆」という字が書かれた張り紙のようなものがあったことくらいだろうか。
0410	小さな花壇と遊歩道があった。花壇は公園の中にあり、道路沿いにあったほうがもっといろんな人に見てもらえそうだと感じた。
0411	緑地内に花壇を発見した。絆の会という集団が設置したもので、地域住民が多くの自然と触れ合えるように作られたのだろう。しかし花壇の周囲は木々に囲まれており、設置場所をもう少し工夫するとさらに良くなるとも感じた。
0412	緑に溢れている。人の気配がなく静かだった。
0413	都市の中にあるとは思えないぐらい木々で囲まれた静かで落ち着いた空間が広がっており、とても癒される感じがした。凄く良い場所なのに少し狭いのが残念だと思った。
0414	近くに緑地がいくつかある中で、最も面積が広く、緑が生い茂っていた。見晴らしも良く、景色は良かったが地元住民の姿は見られなかった。
0415	見た目は公園のようであった。しかし、緑地というよりかは他の植物が多くあり、その植物たちは歩道まではみ出ていた。

0416	ずっと坂が続いており、体力的に少し歩くのが大変だった。路線バスを何度も見かけた。周りは変わらず一戸建てが多かったが、美容院がかたまって何軒もあり、不思議に感じた。また、途中で行き過ぎてしまい、神功四丁目２号緑地に着いてしまった。１つの丁に２つも緑地があるのかと驚いた。本来の目的地である神功四丁目緑地はベンチと花壇、多くの樹木が植えられていたが、緑地周りの植え込み等には雑草が生えており、あまり手入れがされていないように感じられた。
0417	人の気配がなく、静かな草原が広がっていた。
0418	遊具などは多くあるわけではないが、車などが通るような道ではないようなので、子供が安全に遊ぶことができる場所ではないかと感じた。
0419	チェックポイント②と同じく広い緑地。今までは団地や戸建ての住宅街が広がっていたが、この緑地前の坂道を下ると比較的大きな道があり、モスバーガーやエディオンのような店舗が多く見ることができた。住宅街と商業施設のすみ分けがあるのではないかと思った。
0420	比較的広い緑地公園という印象を受けた。人々が自由にスポーツ等を楽しめる空間として重要な場所となる公園だと考察した。
0421	広い公園で周辺にお店などがあった。
0422	道路を挟んで住宅が立ち並ぶ広い原っぱ。１、２、３の地点は住民の住みよさを意識した構造だという印象があったが、この地点は車道が多く、住民への特別な配慮は感じなかった。
0423	通行人が少なかった。また公園の付近は道幅が狭く二人が横並びで歩くのが難しい。
0424	人影はなく、ただ緑地が広がっていた。
0425	遊具や池があり、散歩する人や遊ぶ子供といった住民の姿が多く見られた。
0426	緑が多くて気分良かった。
0427	広く緑の多い公園があった。周りには一軒家が多い。
0428	草が生えっぱなしで全く整備されていなかった。
0429	住宅地を抜けると、景色が開けたところに出た。そこは下り坂が続き、斜面を切り拓き平らにしたような土地が多くあった。辺りを見渡すと少し向こうには山があり、その斜面にも住宅が多く見えたため、もとは平城４号公園側も山であったことが窺える。
0430	公園のような作りであったが、緑地と言うように植物が多く、道にも植物が出て来ていた。
0431	住宅街に位置する大きな広場である。広い敷地と住宅街に位置することにより子供を持つ家庭には子供の遊び場、交流の場としての役割を果たすのに十分と考えられる。高齢化が進むニュータウンにおける緑地公園は、住民の健康を維持する役割も果たすだろう。
0432	ちょっとした公園のような場所で緑地の中でもここだけ公道に面していた。
0433	遊具がなく一面に草が茂っていた。住宅街から少し抜けたところにあり、平日の昼間ということもあってあまり人が見当たらなかった。
0434	緑地に至るまでの団地は地形をよく感じ取れた。左右で違う建物の高低差や道路の斜面などを見ていると元々その土地がどういう形状をしていたのかなどを想像することが出来た。
0435	この公園の周辺は比較的新しい建物が立ち並んでいた。

第５表　平城４号公園での観察報告

報告番号	観察所見
0501	ここまでの歩き疲れを癒してくれるかのような公園の登場でした。緑色に濁った水の上で泳ぐ水鳥に尊敬の念を抱きながら写真を撮影してもらいました。
0502	広い池があった。また、木製の遊具もあることから他の公園とは違い、立体的な動きを伴う遊びが行われていると考えられる。
0503	緑地公園という意味では地点④とあまり変わりはなかったが、ここの公園は広く、散歩している高齢者の方や遊んでいる子供もいた。
0504	探索の中ではひときわ大きい公園だった。今回のフィールドワークで感じたのはここのニュータウンの公園には遊具があまりなく緑地としての機能に重点が置かれていると思ったことである。

0505	池の美しさに感動した。
0506	大きな池のある公園だった。池のそばには桜が咲いていて、訪れた時には満開を過ぎていた。公園内には遊具があり、近所の子供たちが遊んでいた。池の周りを散歩している高齢者が何人かいた。地域の人の健康維持に役立っていると感じた。
0507	身体障害者用駐車場が用意されている。敷地は広いが遊具は少ない。周辺には築何十年かの古い家が多く、歩いてる人は殆どがご高齢の方だった。
0508	桜らしき花が咲いていてきれいだったのと、散歩している高齢者を何人か見かけた。遊び場というよりも憩いの場としての役割が大きそうだ。
0509	東側は奈良市右京地域ふれあい会館になっており、西側は遊具が置かれていた。
0510	大きな広場やジャングルジム、ブランコ等があった。周辺は坂道ばかりだが、公園内を段違いにして区切ることで平地を作り出していた。
0511	体育館と自治会館があり、地域住民の交流の場となっている。大きな池があり、通称「池公園」と呼ばれていること、鷺がいることを小学生が教えてくれた。
0512	地元の子供達に池公園と呼ばれていた公園で、大きな池があり、その周りには花や木が生い茂っていて、その横に公園とスポーツが出来そうな体育館があった。こんな自然豊かな場所で気軽に運動が出来るのはとても良いことだと思った。
0513	大きな池があり、地元の小学生に話を聞くと、子ども達の間では「池公園」と呼ばれ、親しまれているようであった。公園内には児童が運動をする体育館や、集会所には高齢者が集まっており、幅広い世代が集まる場所であった。
0514	池と体育館があることで地域の人々の交流が促進される。実際に体育館でバトミントンをしている若い人々がいた。
0515	この公園の近くに住む小学生と少し会話したら、この公園を池公園と呼んでいた。その通り、この公園には大きな池があり、池の周りには綺麗な花が咲いていた。公園内にはうんていなどのアスレチックな遊具がいくつもあり、子供たちの絶好の遊び場だと思った。
0516	平城３号公園を抜け、グループで４号公園はどこか話しながら歩いていると、私たちの活動に興味を持った小学生３人と４号公園まで行くことになった。小学生達は平城４号公園のことを「池公園」と呼んでいた。確かに公園にはとても大きな池や木製の遊具があり、池でアオサギを見ることが出来た。
0517	住宅街の中にある公園であった。大きな濁った池のある公園であった。
0518	アップダウンの多い住宅街の中でも比較的低い場所に位置していた。上と下に大小の池があり、フェンスがされているが釣りをしているおじさんがいた。この場所はアスファルトが多く水の行き場が少ない住宅街の遊水地としての機能もあるのではないかと思った。
0519	蓮の浮かぶ池が特徴的である。木々に囲まれ静かで、夏場は人々の拠り所になるのではないかと感じた。
0520	大きな公園で大きな池が２つあった。
0521	大きな池が存在し、自然が多い。公園の右部にはガソリンスタンドや住宅が多く、木等は植えられていない。一組の親子が公園で遊んでいた。
0522	大きな池が特徴的であった。公園で遊ぶ親子を見かけた。
0523	平城４号公園には遊具や池があり、親子連れで訪れている様子が観察できた。この近辺は小学校があるため、子供たちの遊び場となっているようだった。
0524	池が濁っていて汚かった。
0525	大きい池があった。地点の前にはガソリンスタンドがあるなど、車の通行量がおおい道路があった。

第６表　平城３号公園での観察報告

報告番号	観察所見
0601	かなり足腰に疲れが溜まってきました。今後は勉学はもちろんですが、身体も鍛え心身共に成長できるように努めなければならないと強く思いました。

0602	コミュニティセンターのようなものを併設している。地域の住民が会議などを行う場所である。駐車場が整備されていて車での移動が多いタウン内においてアクセスしやすい公園だ。
0603	先程の公園よりも大幅に整備がされていた。地面には石やタイルが敷かれ、遊戯もあった。広々とした自然が溢れているという印象から都心部の綺麗目な印象に変わった。
0604	集会所のような施設が見られた。
0605	整備された公園に感動した。
0606	住宅街の中に作られた小さい公園だった。ブランコとジャングルジムがあったが、私たちが訪れた時は公園内に利用者はいなかった。公衆トイレが設置されていた。古いものではあったが、きれいに掃除されていた。
0607	奈良市高の原コミュニティスポーツ会館や集会所があり、小学校と中学校も近くにあるため、幅広い年代の人たちの交流の場になっていると考えられる。
0608	かなり大きめのジャングルジムと普通のブランコがあった。このあたりには広めの公園がいくつもある。小学校、中学校、高校と学校が集まっているからだろうか。
0609	公園の北側の入り口から入るとすぐの場所に奈良市高の原コミュニティスポーツ会館があり、地域の方がバレーボールをされていた。公園の中央のほとんどが池となっているが、池の表面は汚かった。綺麗になればもっと公園の印象が良くなるだろうと感じた。
0610	階段を上っていくとベンチがあり、大きな三角形のジャングルジムがあった。小学生が遊んでおり、次の地点まで案内してもらった。
0611	公園なのに遊具もあまりなく、少し寂しいように感じた。さらに、遊具の色が青一色だったのでもっと多彩な色を使えば景観も良くなるだろうと思った。しかし、自然が多くて良いと思った。
0612	大きなジャングルジム、滑り台などのキレイで新しいアスレチックや砂場があった。遊ぶ子供たちの姿は見られなかった。平城４号公園と比べ、簡素で寂しい公園に感じられた。
0613	この公園に行った時、数人の子どもが遊んでいた。全て青色でペイントされたジャングルジムの遊具がとても不気味であった。
0614	周りは団地、一戸建てばかりで景色があまり変わらないため、道が分からなくなることがあった。平城３号公園は大きく、私たちが到着した公園の入口は階段が続いており一見公園かどうか判断しにくかった。
0615	長い階段と小さな山があり、綺麗な景色を観ることができた。インスタ映え等の若者向けの景色というよりは落ち着いた雰囲気だった。
0616	高い場所にある公園であった。トイレなどがあったが、清潔感がなく、あまり清掃などがされているようではなかった。どこが管理している公園なのか疑問に感じた。
0617	この公園にはきれいとは言えないが公衆トイレが設置されていた。公衆トイレに加えて、公園内には「奈良市右京地域ふれあい会館」という公民館のような施設もあった。この公園に限ったことではないが、このフィールドワークで立ち寄った公園はどれも私の住んでいる奈良市の市街地の公園の数倍はあるような広大な敷地ばかりだ。
0618	大きなジャングルジムが印象的であった。ふれあい会館もあり、老若男女が集う場所だと感じた。
0619	ふれあい会館が隣接していた。
0620	階段を上った先に存在するため、周囲よりも少し位置が高い。大きな木が植えられていたが切られてしまっている。休憩所があり、公園を出ると住宅が密集している。
0621	ふれあい会館があった。ほかの公園と比べ、多くの子供が遊んでいた。
0622	平城３号公園は平城４号公園同様、遊具があり、子どもたちの遊び場となっていた。またふれあい会館という建物があり、きっと近隣住民の交流の場となっているようだった。少し遠くには集合住宅が立ち並ぶ団地が見られた。
0623	色々な遊具があって楽しそうでした。
0624	周りの住宅地より少し高台に地点があった。

第７表　平城第２団地の赤い屋根のインコの家での観察報告

報告番号	観察所見
0701	地図を見ながら近くまで行くことができましたが、はっきりどのポイントが正解であるかわかりませんでした。郵便局やレストラン等が密集している地域が近くにありました。
0702	インコの家を探したが見つからなかった（後日、個人で行って発見した。）団地内に動物を共同飼育するのは、コミュニケーションが少ないとされている今、有効だと感じた。
0703	平城第２団地では、時間帯のせいもあるのか学生を見かけるようになり、住宅地の在り様も地点①～⑥のような西側とは違い、より整理された団地という印象を受けた
0704	「川が流れる庭園」をイメージして整備されているらしく、団地内の遊歩道沿いに人工の川が作られていた。中心部には公園があり、訪れた時には地域の子供たちが十数人遊んでいた。これまで私は、団地には子供よりも高齢者が多いというイメージを持っていたので印象的な風景だった。また、集合住宅を外から眺めた印象として、思っていたよりも入居者が多いと感じた。
0705	遊歩道沿いに 遊具が設置された広場や人工のせせらぎあり、子供たちの遊び場が確保されている。集会場もあるため、地域間の交流がしやすいのではないかと考えられる。駅から近いこともあり人通が多く、特に高齢者の方が多かった。車通りがあるところを通らずに駅まで行くことが出来る。
0706	インコの家の屋根は赤ではなく黒っぽい色に変わっていた。団地内には遊んでいる子供とそれを見守る母親が何人もいて、家族が多いらしく割とにぎやかだった。駅とイオンモール、小学校も近くにあり家族連れには良い場所なのであろう。また、敷地内に水が流れていたり、公園のような遊び場が何か所もあったり、夏祭りなどのイベントも行われているらしく、人と人の出会う場所がたくさん設けられている。
0707	インコの家は周りにカーテンがされていてさわったりすることはできなかった。屋根は最近塗り替えたようで赤ではなく青になっていた。団地内は、遊歩道沿いに人工の川が流れていたりたくさんの木が植えられたりしていて自然に囲まれていた。
0708	公園や小川、インコ小屋があるのを確認した。団地内で遊ぶ子ども達の姿も多く見受けられ、自然溢れる空間を作り出すことでそこに住む住人達にとって住みよい環境を整えているのだということを学んだ。
0709	ショッピングモールに近い団地である。インコの家の屋根は赤くなかった。年配の方が多く歩いていた。
0710	この団地にある赤い屋根は奈良や京都において景観が良くなることを願って付けられたように思えた。辺りには、小川が流れていたのでまるで絵に描いたような風景で綺麗で、住み心地も良さそうだった。
0711	いくつもの団地の建物が並びとても窮屈そうに思えた。しかし、辺りにはイオンモールや小学校、中学校、高校が近くにあり、生活、子育てをするには不便さは感じないと思った。
0712	お爺さんに尋ねたところ、ごく最近になって屋根の葺き替え工事を行ったようで、インコの家は赤くなかった
0713	他の地点と比べると、歩道橋などもあり、大きな道であった。車の交通量なども少なくなかった。
0714	赤い屋根のインコの家を探すために団地の周りを歩いていると、「団地内通り抜け禁止」という看板が目についた。実は赤い屋根のインコの家は屋根が黒く塗装しなおされていたと後で担当の先生から聞いた。
0715	赤い屋根のインコの家を見つけることが出来ず悔しかったが、また新たな団地を観察することが出来た。ur賃貸住宅と大々的に看板が出ていたのが特徴で、ur住宅とは何かを学ぶきっかけとなった。この団地は駅や大型ショッピングモールと近いからか、車道付近にあり多方面へのアクセスが良いと感じた。
0716	インコの家は見つけられなかった。大学が近くにあり学生が多かった。
0717	インコの家は見つけることができなかった。ショッピングセンターが存在し、道路を挟んで団地と商業施設とに分けられている。ショッピングセンターにはピザーラ等いくつかの施設があり、付近には郵便局があった。
0718	平城第二ショッピングセンターがあった。マンションが立ち並び、都市部だなと感じた。

0719	赤い屋根のインコの家は発見できなかった。後から話を聞いてみると、屋根が赤から黒に塗り替えられていたらしい。また平城第２団地には隣接するショッピングセンターがあり、近隣住民が多く利用している様子が観察できた。
0720	綺麗な団地ですみたいと思った。
0721	団地があり、近くにはショッピングセンターがあった。人通りも多い。

第８表　サプライズィング下水道での観察報告

報告番号	観察所見
0801	駅の東側、広場の目立つ位置にあった。下水をガラス越しに覗き見ることができる画期的な施設で、非常に興味深かった。しかし、経年劣化によりガラスが白くくすみ、現在は見ることができなくなっていた。残念だった。
0802	平城 ニュータウンの家庭から出た汚水は この下水道を通り、平城浄化センターに集められる。処理された水は木津川、淀川を経て 大阪湾に流入する。高の原には何度か来たことがあったが、浄化センターがあることは知らなかったので驚いた。
0803	マンホールを上から覗くと下水の流れる様子が見えるらしいが、実際は地面のガラスが曇っていて何も見えなかった。しかし、このような下水道のメモアールは珍しい。
0804	平城ニュータウンの各家庭からの汚水が平城浄化センターに集められていく間の下水管の中の一部が覗けるようになっていたようだが、現在はマンホールやガラス部分に蓋がされており見ることはできなくなっていた。
0805	以前はマンホールを覗くと下水管の様子が見られるようになっていたようだが、現在は封鎖されている。近隣には処理水を活用した広場や公園もあり、地域住民によりそった浄化センターを目指しているということがうかがえる。
0806	大きなマンホールで閉じられている。バス停付近にあるから何気なく通り過ぎてしまうが下水道についての看板を設置してある。
0807	この下水道は、かつては透明アクリル越しに下水道の様子を見ることができ、夜には中がライトアップされ、子供達がそのライトを追いかけて遊んでいた場所だ。今はマンホールで閉じられており、少し残念な気もした。
0808	高の原の駅やバスのターミナルからすぐ近くの所にあり、高の原周辺の下水道の歴史について書かれていた。人通りが多いため、たくさんの人が目にする機会があるものと考えられる。
0809	駅の近くに下水道があることにとても驚いた。さらに駅の近くには水道局があり、水の管理を徹底して行っていることに気づきました。
0810	地点⑨から地点⑥に向かう時に気付かず通り過ぎていた。変わった名前の下水道だと感じたし、説明書きの看板もあり、ここまで目立つ下水道は初めて見た。近くにバス停があり、神功の住宅地方面を中心に多くのバスが出ていた。また、近くに北部会館や、大型ショッピングモールがあることから平日でも人通りは多かった。
0811	高の野原駅を挟んだ近鉄線の京都府側にある建物は下水処理場である。その処理場ではパイプなどの設備が見えない標準活性汚泥法と呼ばれる設備によって下水処理が行われている。この方法は広大な土地が必要となるが、日本で広く用いられている。高の原駅周辺は山を切り拓いた土地であるため、地下での土地の確保が比較的容易であったことが、この方法を採用した要素でもあると考える。バスロータリー前には、その下水処理場の説明が表示されており、マンホールの周囲から下水管を流れていく水の様子が見ることができた。
0812	駅前にあり、駅の近くには水道局もあり、それも含めて水の管理に力を入れているのがわかる。
0813	高の原駅前の広場には平城ニュータウンの下を流れる下水道を説明する案内碑が設置されていた。駅前の人通りの多いところに碑を設置することで、住民の環境に対する意識、関心を向上させる目的があるのだろうか。ただ説明を書くのではなく、図の挿入や様々な色を使うことでより多くの人が関心、親しみを持てるような工夫がされていた。
0814	駅周辺なので人は多かった。
0815	初めに近くを通った時には気付かなかったが、北部会館に向かう途中で発見した。道の真ん中に記念の石のようなものがたてられていた。
0816	サプライズ下水道という呼び名の由来が分からなかった。

第９表　音浄ヶ谷公園での観察報告

報告番号	観察所見
0901	公園の近くに高速道路があり、交通の便が良い郊外であることが分かった。建物は新しめの新興住宅ばかりでこちらの方が商業施設がないものの新しかった。
0902	高の原駅を過ぎ、10数分歩いたところにありました。10番のポイントを目指して歩いていたため見逃しそうになりました。草原のような公園が見える場所にあり、遠くに高速道路が見られました。
0903	この公園は瓦を焼いた窯が存在している。やはり、このニュータウンは全体として歴史的遺産をおろそかにしない街づくりをしていると考えた。
0904	ここの音浄ヶ丘公園は遊戯や施設があるという訳ではなかったが、丘になっている分景色がよく、町を見渡せるようになっていた。
0905	団地が多く立地していた。遊歩道のような道を抜けると広大な原っぱが広がっていた。そこへ行く途中の道には奈良県と京都府の県境がありその部分は石で境界線がわかるように工夫されていた。また道でない部分の境界線は緑地帯になっていた。
0906	公園の広さに感動した。
0907	山の斜面に設置された公園だった。訪れた時間帯公園にいたのは私たちだけだったが、住宅地の中にあり緑が多いため、地域の人の散歩コースになっていると思われる。平城京の時代に瓦を製造した窯跡がいくつかあり、発掘された状態のまま公園内に展示されていた。
0908	平城京の宮殿や役所を造る際、 この公園にある音如々谷瓦窯で焼いた瓦が使用され、周辺には、新しくておしゃれな家が多い。
0909	1972年の発掘調査で見つかった歌姫西瓦窯跡がある。この窯で焼かれた瓦は平城京やお寺に運ばれた。
0910	大きな窯の遺跡があって、遊具はなく、遊ぶための公園という感じではなかった。 周りが閑静な住宅街のためか、人気もなかった。
0911	平城宮の宮殿や役所に葺かれた数百万の瓦が平城山丘陵につくられた窯で作られ、音如ヶ谷瓦窯跡もそのうちの一つと言われており、1979年の発掘調査により発見された。周りに壁や柵があり立ち入れないようになっている。窓が開いており日光が入るようになっているものの、昼間でも少し暗かったため、改善する必要があるのではないかと感じた。
0912	公園内の音如ヶ谷瓦窯跡を観察した。ここで見つかった瓦は平城宮や役所に用いられていたもので大変歴史ある窯跡だということを学んだ。
0913	音浄ヶ谷公園までにある高の原駅東第２団地は、レンガ造りの家が多く、珍しい苗字の家も多く見られた。また、県境となる印も見られた。
0914	この公園では、花が咲いており、辺りに木や草が生い茂っていて、とても自然を感じた。公園からは住宅地が見え、お洒落で高価そうな家が多かった。そして、少し静かなイメージだった。
0915	音加ヶ谷遺跡の公園として、瓦釜跡のレプリカが２基あった。公園内は、木々や花壇などの整備が行き届いており、法隆寺の割建瓦を焼いた窯が発掘されたという歴史の深い場所を、地域住民や外部から訪れた人々にとってさらに魅力あるものにしていた。
0916	公園の辺りは住宅が多く、畑も広がっていたが、少し行けば大型商業施設があった。そのため家の近くで買い物ができるため、買い物に不便さは感じないと考える。
0917	13時半頃に高の原駅に到着し、音浄ヶ谷公園へ向かった。最初公園がどの方面にあるのか地図を読み取るのに手間取ったが、無事に到着出来た。公園までの道は周りが団地であったが非常に静かで平城高校が近くにあることから、高校生をよく見かけた。公園には遊具は無く、広い芝生があり花が植えられていた。
0918	県境のマークがあったが、それほど目立ってはいなかった。
0919	１～７の地点ではコンビニや自動販売機などがほとんど見当たらなかったが、この地点の周辺ではどちらも見かけ、１～７地点と比べると利便性が高いのではないかと感じた。
0920	なだらかな傾斜地で二つの公園がつながっていた。普段よく利用するカインズホームが公園の東側の遠くに見えた。Googlemapでこの公園を調べると、「音如ヶ谷瓦窯跡」と「歌姫西瓦窯跡」という二つの窯の跡があることが分かった。

0921	高の原駅の東側に位置する。木津川方面を一望できる緑地で、景色がよかった。遊具や遮蔽物が無いためラジオ体操の集合場所にもってこいだと感じた。
0922	周辺の団地は比較的新しく、広い公園だった。
0923	広い原っぱであり、なだらかな坂になっている。下部には住宅が広がっている。閑静な場であるが、花壇といくつかの花が植えられていたため殺風景だとは感じなかった。
0924	高地であり、住宅街を見下ろせる。公園の丘を下ると、レンガを焼いていたようなかまどらしきものを見つけた。
0925	音浄ヶ谷公園は広い芝生が広がっていた。遠くを見渡すと、大きな道路やショッピングセンターが見られた。
0926	京都府と奈良県の県境付近に位置する。公園内には急な勾配の坂があり幼い子どもには危険。調査時、人の気配は見られなかったが、公園内は手入れされているのを感じた。
0927	ここの公園は遊具がなく芝生だけでのんびりできそうでした。
0928	緑が多く、遠くが見渡せるほどの丘になっていた。
0929	高の原駅から団地内を歩いたが、その中に県境がありとても新鮮だった。
0930	UR住宅都市と戸建て住宅街を挟んだ閑静な歩行者通路には、木や草花が植えられ整備されていた。音浄ヶ谷公園は一面が芝で覆われ、花壇の花も手入れがされていた。
0931	高台に公園があり、街の風景が見渡すことができ、学んだことは畑が多くみられたが、少し行くと大きな商業施設があり、買い物をするときに遠出する必要性は大きくないと考えた。
0932	音浄ヶ谷公園にて高台から周辺の景色を望んだ。周辺地域には田んぼが多く、ニュータウンといえどまだまだ周りには昔のままの土地が残っていると推測できる。 また京都と奈良との県境を確認した。
0933	住宅街、遊具は無かった。
0934	周りには何もなく野原が広がっていた。急な斜面になっていて見晴らしがよかった。住宅街には新しめの家が多かった。
0935	近くには住宅街や団地が立ち並んでいた。また公園は遊具等があるわけではなく、原っぱがあるだけだった。

第10表　歌姫近隣公園での観察報告

報告番号	観察所見
1001	音静ヶ谷の窯跡から歩いてすぐの場所に、同様の窯跡がいくつか集まっていた。ここも史跡公園となっている。遺跡自体は歩道から外れた薄暗い森の中にあり、やや観察しにくく感じた。
1002	音浄ヶ谷公園と同じような雰囲気の公園だった。少し高台に位置しているので眺めがよかった。
1003	音如ヶ谷瓦窯跡と同じく平城宮の建物に使うための瓦が作られていた窯のひとつで、1972年の発掘調査で発見された。周りが雑草で覆われており、また斜面に作られていたため、観察しにくかった。
1004	歌姫西瓦窯跡を観察した。平城宮に使われた瓦が焼かれていた窯があり、その窯はなだらかな斜面に沿って並んでいた。当時の工人たちが良質な瓦を作るために施した工夫だろうと伺える。
1005	奈良と京都の境目を歩いたが、意識しないと県境を行き来していると分からなかった。この周辺では県境が引き起こす環境の違いというのは見受けられなかったように思う。ここで生まれ育った人は奈良県民なのか京都府民なのか。住民がそれをどのように意識しているのかが気になった。公園は「公園」と名がついている割には公園として適していないと感じた。なぜなら、遊具もなく斜面の原っぱがただ広がっていただけだったからだ。

第11表　自分の勉学を進める上で参考やヒントになったこと

報告番号	観察所見
1101	街を歩いていて、疑問に思ったのがコンビニがまったくなかったことである。私たちの生活に根付いているものだがセブンイレブン一件と駅ナカのファミマしかなかった。ファミマは近鉄と連携していることは知っていたが、真新しい売店はやはり目についた。近くにイオンがあるとはいえ、ジュースやガムなどは近くのコンビニの方が楽であるし、わずかな消費でも企業は儲かる。最近流行りの現金フリーの流れにも対応しつつあり、近鉄のPiTaPaは近畿のファミマでどこでも使えるが、他のコンビニに比べて優れていると言える。自動引き落としなので買い物を躊躇う必要はないし、近鉄と手を結んだのは賢い選択だろう。JRはセブンイレブンが強いが、今回の野活で見つけたセブンはやや駅から離れたところにあり、競合は避けていた。ニュータウンなので飲み屋、居酒屋の類はまったくといっていいほど見当たらなかった。住宅街ばかりを進んだことも理由の一つなのだろうが、サラリーマンの街というよりは学生の街、家族団欒の街という印象を受けた。奈良大学と思われる学生と何度もすれ違ったし、活気は高の原の中心地にはあった。駅の近くの主な商業施設は、イオンとスズラン館だと思われる。スズラン館は近商だが、総合スーパーを辞めて食料品に重きをおいている。昔はもっと規模が大きかったように思えるが、サティ（現イオン）の台頭により規模が縮小されたことは目に見えている。地方ではイオングループが街の中心地となるモールを作っている。なんでも揃うし、飲食店も多いので地元住民はとても楽だ。私の地元　安堵町ではコンビニがスーパーの代わりをしているが、高の原のイオンの規模はその比でない。商業施設も複合化しているが、医療機関も複合化していることをあげる。高の原中央病院の周りに薬局が並んでいた。コンパクトシティとして駅の周辺に施設が集まっていることは良いものの、駅周辺以外には経済は発展しにくいのではないだろうか。奈良の北部会館でも同様に図書館などが詰められており、行政機関の複合化も行われていた。地理としては奈良と京都では異なると思われる。奈良側は、学園前などが戦後の初めから開発されているが、京都は発展は遅れた。今回の野活で見たところ、京都側の方が新興住宅が多かったように思われる。たいして奈良側の団地は、階段室型の古いタイプの作りだった。団地リノベーションなども最近はあるが、今風の一戸建て住宅の方が若者受けするだろう。駅から出てきた地元学生のうちイオンによる人もいたが、京都側の方に帰って行く人が多かった。元々コミュニティーデザイン志望だったため、地域のことに今後も目を向ければと思う。 気になるのは高齢者があの坂ばかりのところで暮らしやすいと思うかだ。歩いて身にしみたが、アップダウンが激しかった。坂が多いことと陸橋の階段もお年寄りは苦しいと思われる。京都側はそうでもなかったのでその点も考慮すれば、京都側の方が新興住宅が多いのも察しがつく。商業施設などは奈良側まで歩いていけばいいだけなので、便利といえば、便利だ。しかし、あそこまで一カ所に重要施設が集約されていると地域内格差はあるのではないかと思う。奈良側の坂がキツイ所と京都側のある程度緩やかな地域では地価も異なるのではないだろうか。県境なので行政区間が異なることで税金の差があるのではないかといろいろ考えらさせれた良い機会だったと思う。個人的にはコミュニティーバスやサブカルチャー（アニメ、漫画、コスプレ）なとが経済にもたらす影響に興味があるので今後機会があれば、勉強したい。
1102	自分は奈良県で生まれ育ちましたが、今回のようにニュータウンを見て回るということはしたことがありませんでした。そのため、私の故郷田原本町との違いが良く分かったと思います。今回調査したのがニュータウンということだったからか、住宅街がきちんと区画分けされていると感じました。また特に印象に残ったのが、その一つ一つの住宅に一階がなく高台に家が建っていることでした。これについては、推察するに山手を削って家を建てたためこのような構造になったのではないかということです。今後学習を進める中でこういったことにも触れていけたらと思いました。また、大通りに出ないとコンビニや自動販売機がなく、公園等がたくさんあったため田原本町よりもある意味で不便さを感じました。まだまだ知識が乏しく気づく点が少なかったため、今後の学習でしっかり身に付けていきたいと感じました。
1103	まず、グループによるフィールドワークは比較的少人数で行うほうが、観察及び調査が時間をかけて行うことができる。今回、自分が先頭になって少人数でルートを考えたりしるしを探していたりしたが、その他の生徒は活動に参加しようとしていなかった（自分のグループにその他２グループが追従する形）。その後、時間計画を考え行動しているにもかかわらず、早く帰りたいという意見を強く訴えるようになり、８及び10の観察ができなかった。今回、フィールドワークを行った平城相楽ニュータウンは木津川市・精華町・奈良市の３自治体が合わさってつくられたものだ。今までにも何度か調査に訪れていたが、今回のフィールドワークではより広く調査することができた。 今回、このニュータウンで強く感じたことは以下の３つだ。①大きい幹線道路などと歩道を完全に分離していることや、陸橋を多数設置していることから徹底した歩車分離の街づくりが

	なされている。②歴史的な遺跡などがニュータウン内に点在しており、それらを壊すことなく取り込んでニュータウン内のゆとりや学習の場として機能している。③公園の数が多く、子供たちが外で遊びやすい環境が存在している。遊びたい内容によって公園を選択することができる。また、コミュニケーションの場がしっかりと確保されていた。 　これらのことからまちづくりやコミュニティについて自分が学んでいくうえで、①コミュニケーションが取れること、②外に出ていけることが重要であると考えた。 　フィールドワークという調査方法についてだが、インターネットで調べて事前に情報を取り入れていくことで、フィールドに出向いた際、発見できるポイントが多くなると私は考える。また、グループで違う考えを持った人と行動することで、フィールドにある対象に対して多角的なものの見方をすることができた。他にもそこで遊んでいる子供たちやお年寄りに公園の遊びやすさ・タウンの住みやすさなどをインタビューするなど生の声を知ることができると考えたため、今後出向いた際には実践してみることにする。
1104	これまでも他の講義でまちの探索やそのまちの造りを観察する機会があったが、これからはフィールドワークなどでよりその機会が増えると感じている。なので、その際には今回の調査を活かし、どういう観点で、何を見ればいいのか、より注意していきたい。
1105	今回のフィールドワークでは、大都市近郊のニュータウンというものがどのようなものであるかがよくわかった。ニュータウン内には一戸建て、団地、マンションと多くの種類にわかれた住居があり多様なライフスタイルに対応したものになっていた。住宅様式が違うのは、違う業者が宅地開発を別の時期に行ったためではないかなどを考えながら行動する事ができた。また、平日ではあったがショッピングセンター内は多くの人で賑わっており、ニュータウン内での商業の集積となっていた。さらに、県境が施設内にありしっかりとわかるように示されていたのは印象的であった。しかし、その事に気づいていたり、意識している人は少ないように見受けられた。今回のフィールドワークでは、地域を探索して特徴を見つけ課題を考察するというフィールドワークの意味を実感する事ができた。今後のゼミやフィールドワーク単位で行う野活よりは規模としては小規模なものであったが、今後に活かせる内容となったと思う。特に日常的な風景から疑問を持ち調査するという点は自分には弱い点だと考えるのでその点を向上させていきたいとも実感した。
1106	歩くことは大切であること。
1107	近鉄高の原駅ホームが４つあり、急行列車が止まる、やや大きい駅だった。駅の西側は歩道を進むと戸建て住宅が立ち並んでいて、比較的落ち着いた雰囲気だった。対して東側にはバスロータリーやショッピングモールがあり、にぎやかな雰囲気だった。私たちはまず西側の音静ヶ谷公園を目指した。 　北部会館には、福祉センター、市民文化会館、図書館がある施設だった。訪れたのは平日であったが、頻繁に人が出入りしていた。福祉センターでは高齢者や子育て世代に向けた講演会が頻繁に行われていて、市民の交流の場として活用されていると感じた。 　近くには駅やロータリー、団地、ショッピングモールがあり、気軽に訪れることができる場所だった。 　イオンモール高の原のフードコートには、高校生や主婦など、多くの人でにぎわっていた。この地域では老若男女が集う場所となっているようだった。一方、小規模な商店は私たちが歩いた範囲ではあまり見かけなかった。 　昨今ニュータウンの高齢化が進み、ゴーストタウン化しているという問題が取り上げられるが、この地域においては、むしろ活気がある街だという印象を持った。訪れる曜日や時間帯によっても印象は異なると思うが、私が今まで訪れたニュータウン（大阪　泉北ニュータウン、奈良　鳥見町）と比べても子供や学生、その親世代が多く、活気を感じた。団地やニュータウン特有の街並みでありながら、住民の間で地域コミュニティーが構築されていると感じた。そこには、北部会館でみられた福祉的活動や、団地や公園の環境整備など、行政による取り組みの効果が表れていると考えられる。
1108	基礎ゼミで輪読を行った『地方消滅』により、木津川市の周辺はベッドタウンとして機能しており、女性の人口が増加しているという情報は知っていたが、今回、実際に平城ニュータウンに行くことで、どのような点がベッドタウンとして機能することや女性の人口増加に繋がっているのかということを知ることが出来た。 交通の便がよく、大阪など会社が多くある場所に行きやすいこと。イオンやサンタウン高の原といった商業施設があること。北部図書館や病院、公園といった高齢者や子供たちが過ごしやすくなるような施設が多数あること。シニア向けの健康に関する講座や子供が楽しめる催しが行われていることなどが要因であると考えられる。 交通の便がよい、施設が多いといったことは全ての地域に当てはめて考えることはできないが、

	シニア向けの講座や子供が楽しめる催しを定期的に行うことは、交流の場を作ることができ、地域の活性化にも繋がるのではないかと思った。
1109	平城ニュータウンのあたりに「平城第２ショッピングセンター」という商業施設があった。フロア案内や店舗からしてずいぶん年季が入っていて、ニュータウンができたのと同時期に今のイオンモールのような感じでつくられたと思われる。イオンモールの１Ｆには、大きく県境の図が描かれていた。
1110	○府県境について 一つ目に見つけたのは平城浄化センターアピール下水道の付近である。路面に「KYOTO」「NARA」の文字と境界線が書かれていた。 二つ目は音浄ヶ谷公園と歌姫近隣公園の境である。地図で見ると音浄ヶ谷公園は京都府、歌姫近隣公園は奈良県側に位置しているが、実際には目立った境界線を見つけることはできなかった。 三つ目は平城右京団地と高の原駅西第二団地の境である。団地の間に自分の身長と同じくらいの高さの柵がしてあったが、目立つ表記や看板等は見つからなかった。 四つ目は『イオンモール高の原』の中である。地面に大きく「NARA」「KYOTO」の文字があった。 ○近隣商業施設の比較について 駅周辺の表立った商業施設は、『イオンモール高の原』『サンタウンプラザすずらん館』『平城第二ショッピングセンター』の３つであった。イオンモールが一番大きく、中に入っている店舗数は群を抜いており、駅からも一番近い場所にある。すずらん館は、イオンモールと比べると店舗数が少なく駅から少し歩いた場所にある。田舎のショッピングセンターのようだと感じた。平城第二ショッピングセンターは、ショッピングセンターというより商店街のようであった。店舗が20ほど集まっているのに対し駐車場が少なく感じた。 イオンモール高の原は、平日だったためか比較的買い物に来ている人は少なかったと感じた。放課後くらいの時間だったためか、制服姿の学生を見ることが多かった。 ○参考やヒントになったこと 団地の内外にたくさんの公園や緑地があることに驚いた。近年、大都市を中心に、子供たちが自由に遊べる公園が減っているため、これはとても良いことだと感じた。 始めの２箇所の公園には瓦窯跡があったり、平城第二団地の集会所には出土した瓦を復元されたものが展示されていたりと、平城宮の歴史を感じることができるものがあったが、どれも目立つ場所に無く観察しにくかったため、わかりやすく改善したりもっとアピールしたりする必要があるのではないかと感じた。 今後の勉学のヒントとして、観光資源を地域にどう溶け込ませるか、地域の人たちにもっと身近に感じてもらうにはどうすればよいか、を考えることが重要だと感じた。
1111	私は、子ども達にとって住み良い街とはどのようなものかについて深く学びたいと考えている。今回のフィールドワークで様々な団地、公園等を見て回ったが、改めて自然の大切さを感じた。私の地元にはあまり公園等がなく、駐車場や道路上など狭いスペースで制限されながら遊ぶ子ども達を多く見てきた。それに比べ、今回歩いた高の原周辺の子ども達は広い公園内や団地内の自然に囲まれてのびのびと遊んでおり、住宅街として人工的に切り開いた土地であってもそこに自然を感じられる空間を作り出すことがどれほど重要かを知ることが出来た。
1112	奈良県と京都府の県境にある高の原ニュータウンだが、今回は奈良県のほうを多く回った。車のナンバーは、京都と奈良どちらも同じくらいの数だったように感じた。これだけ公園があって、近くには小学校もいくつかあるのに、公園で遊ぶ小学生は少ないように思った。公園にある遊具の少なさがひとつの原因ではないだろうか。上記にも記したが、音浄ヶ谷公園までにある団地の表札が珍しいものばかりで興味深かった。Wikipediaによると、高の原ニュータウンは1986年から入居が開始されたそうだが、高の原駅から神功四丁目緑地までの表札を見ていても珍しいものはあまりなかった。街を歩くだけでいろいろな発見があったが、私の感じたことが地域経済に関することかと言われたら少し違う気がする。だが、地域のことを知るためにはネットの情報だけでなく、実際に足を運ぶことが大事だと学んだ。
1113	今回フィールドワークで訪れたこの高の原は建物が多いのにも関わらず、自然が多い場所が多く、建物も綺麗で、イオンモールもあり、利便性を感じた。しかし、イオンの進出により、地域の個人商店や商店街が駆逐されたのであろうということを感じた。そのため、駅前でしか人々の活気がないように感じられた。そして、北部会館には、図書館、市民文化ホール、福祉センターがあり、地域住民の支援や憩いの場が提供されていた。さらに、高の原はベッドタウンとしても知られており、奈良県の県外就業率は全国一位であることから、この辺りの住民は地元で働くのではなく、近くの京都や大阪に仕事へ行く人が多いのだろうと思った。

1114	今回の学外学習では、主に高の原駅周辺の公園や緑地を多く見て回った。平城４号公園には子どもや高齢者など多くの人の姿が見られたが、他の音浄ヶ谷公園、平城第３号公園、神功四丁目緑地には地域住民の姿はあまり見られなかった。このような大きな差が生じた要因としてやはり立地や公園内の施設の充実さが挙げられるだろう。だが、今回初めて高の原を訪れた感想としては、どうしてそこまで平城４号公園に多くの人が集まるのだろうかと疑問であった。というのも、平城４号公園内の大きな池一面には水生植物がびっしりと生息し、景色の良いものではなかったからである。それに比べ、人の少なかった他の公園や緑地は、音浄ヶ谷公園のように深い歴史があり、平城第３号公園や神功四丁目緑地のようにきれいなアスレチックや気持ちのいい景色が広がっており、外部者から見れば後の３つの公園の方が魅力的に感じるのではないだろうか。こういった点から、実際に住んでいる地域住民と外部者との考えや感じ方には違いが生じることが分かった。例えば、地域にとって外部者である私たちが地域内で活動や政策を行う際、地域のためを思っての行動であっても、地域住民からすれば見当違いやただのお節介となってしまう場合がある。本当にその地域の利益とするには、やはり地域住民とのコミュニケーションが重要になってくるのだということを今回の学外学習で実感させられた。
1115	学外学習を振り返って、高の原の平城ニュータウンは京都と奈良の県境にあるので、県境の標識がありました。その県境の標識はただ引いてあるだけでなく、標識にもしっかりとした意味があることにも気づきました。この学外学習から学んだことは、普段何も気にしてないことを気にしてみたり、疑問を持ったり、興味を抱いたりすることで、新たな発見が生まれ、新たな知識や考えが身につくことを学びました。逆に、このことは自分が大学で勉強するうえで、とても参考になると思います。むしろ大学の授業はそうゆうところも要求されると思うので、今回の学外学習は再びそれを感じる良い機会となりました。イオン内の奈良、京都の県境のラインを見に行った。写真を撮っている観光客がいた。やはり、珍しいものに観光客は目がいくと思った。
1116	今回、初めて平城ニュータウンを調査し、時間と目的地を考慮しつつ調査するルートを考える大切さを感じた。道を間違えたり、迷ったりする場合も考えて余裕のある行動をすること、地図を正しく読み取る力が必要。 ニュータウンであることから当たり前ではあるが一戸建てが多く、近くの商業施設までは車やバスがあると非常に便利であると感じた。また高の原駅周辺には様々な施設があり、大型ショッピングモールはもちろんのこと、病院と薬局といった医療系１つのビルにまとまっていたり、逆にデイサービスの施設と飲食店等といった別ジャンルの施設が軒を連ねている場所もあった。北部会館には人々が生活をより良くするため、料理教室やカフェイベントなどが行われていた。結果として様々な種類の施設があることはニュータウンで生活する人々にとって便利な場所であると感じた。 他のニュータウンを調査するときは、この平城ニュータウンも１つの目安として公園や緑地の多さ、周辺の施設にはどのようなものがあるかに注目して調査を行いたい。
1117	自販機が少な過ぎて熱中症になりそうだった。坂が多かったのでお年寄りの方が移動するのが困難そうに見えた。
1118	平城ニュータウン周辺が非常に印象的であった。平城ニュータウン周辺は坂が多く建物自体も高く作られているように感じられた。またほとんどの家が車を所有しており、車も高級車が多いようであったことから、富裕層が多く住んでいるのではないかと考えられる。住宅街であり、多くの人が住んでいるようであったが、コンビニや自動販売機などがほとんど見られなかった。高の原駅の周辺では大型商業施設などもあり、買い物などには便利なようであったが、平城ニュータウン周辺地域は駅からも遠く、徒歩圏内に商業施設なども少ないため車などを所持しなければ生活に不便ではないかと感じた。今回のフィールドワークを通して、現地調査することの重要性を実感した。ニュータウンの現状などは、授業などで取り上げられることもあったが、実際に目にすることで、ニュータウンの現状についてより深く理解することができた。今後もできる限り現地に赴き、実際に目にすることで理解を深めていく必要があると感じた。
1119	今回のような、住宅街をフィールドワークで観察しながら歩くというのは初めての経験であったが、私の住んでいる場所が住宅街ではないということもあり、様々な違いを知ることができた。 例えば、フィールドワークで歩いている終盤にのどが渇いてきたという話を一緒に回っていた友達と話していたが、住宅街の中では全然自動販売機が見つからない。人が多く住んでいる地域なので自動販売機を置けば商売が成り立つのではないかと考えていたが、今回歩いた住宅街の中には全くなかった。もちろん少し大きな通りや公民館のような施設の前には設置されていたが、これも住宅地の特徴ではないかとふとした点から気づいた。

	他にも、歩いて回った上でしんどかったのは上り坂や下り坂などアップダウンが多かったことだ。平地に作れば便利だと思うがこのような地域に町を作る要因が何かあったのか。新興住宅地はもともと人のあまりいない丘を開拓したことによりこのようなアップダウンが多い町になってしまったのか。これは一つお年寄りが住むには不便だろうなということも分かった。 活動内容にも記入したが、広大な敷地の公園が町の中にあることもニュータウン独特なものではなはないかと思った。
1120	かねてから都市と都市の間はどの程度発展しているのだろうと疑問を抱いていたが、今回京都と奈良の中間地点となる高の原エリアを考察し、程よい住みやすさを兼ね備えた自然と文化の町であると考察できた。特に駅や大型ショッピングモール周辺は商店や病院、コミュニティセンターなど人々の集う施設が集中しており、住宅地方面へ進むほど自然に囲まれた文化的な遺跡や公園が存在する閑静な住宅街へと姿を変えるので面白かった。やはり大型商業施設に人々が集まるので、いかにその施設へのアクセスを良くするかが地域開発・発展へのポイントとなると考え、考察してゆきたい。また、散策した複数の団地でur都市機構の表記を見て、都市再生機構の存在を知った。高の原エリア以外にも、他の地方中心部となる地域にこの機関の住宅地があるのではと考えたため、自ら他の地域も考察してみたいと考える。
1121	高の原のイオンモール内に奈良と京都の府県境を示すモニュメントがあった。万葉の小径を抜けた先にも奈良、京都の府県境があった。団地によって規模が全然違っていた。比較的新しい団地は若い世帯も多いように見受けられた。古い団地は空き家も目立った。
1122	見かけた人間はほとんどがお年寄りや子供で、観光客は全く見かけなかった。そして、全体的に自然、住宅が多いという印象だった。その多くは人工的に植えられたものであり、町を開発していく段階で人と自然のバランスが良く計算されていると感じた。事前の調査で平城ニュータウンは施設の場所があらかじめ決められており、計画的に開発された場であると調べていたので参考にすることができた。自然と住宅のバランスを実際に見て、より理解が深まった。 高野原周辺を観察したところ、イオンモールの他にも商業施設が存在していた。そこで見かけたサンタウンプラザすずらん館はいくつかの商業施設が集まってできたものであり、イオンモールと比べると小規模なものである。店舗の種類では圧倒的にイオンモールが勝っているものの、目的の店舗へたどり着く労力を鑑みると近隣住民の日々の買い物には小規模施設であるサンタウンプラザすずらん館が利便性において勝っていると感じた。そして、それ故にイオンモールと近接していても営業が続けられているのだろうとも感じた。この観察から、ターゲットを絞れば大型商業施設と近接していても営業していけるのだということを学ぶことができた。 今回の勉学のヒントは、誰のために開発された地区かを考えるということだと思った。どんな地域であれば人が住みよいと感じるか、また、そのためにどうすればいいのかを考える重要性を学ぶことができた。
1123	今回のフィールドワークは住宅街を中心に行った。立ち寄り地点に向かう際に小中学校・多数の保育園・幼稚園を見かけた。また、立ち寄り地点では比較的近くに公園が多数あることを確認できた。これらは住宅街として成り立つ重要な要素だと考えた。住宅購入の際、子供の将来を考えて、立地や間取りを考えることが多くなった。それは、中学受験などの受験戦争が表面化し、一般家庭でも熱心に教育に取り組むからだ。このような背景から、必然的に幼稚園・保育園・小中高等学校が集中している地域を候補として選ぶのだろう。また、住宅街が高地であり、斜面が多いため、土地公示価格が安く、住宅建設に費用をかけやすいと考えた。さらに、ほとんどの住宅に駐車場が設置されていたことから、主な交通手段は乗用車と予想されるため、電車などの公共手段は優先順位が低いと考えられる。そうはいっても、そうたいして遠くない距離に近鉄高の原駅・多数のバス停が存在する。 このようなプラスの特徴がある一方で、公園付近の道幅の狭さ、公園のトイレの清潔感、コンビニエンスストアが少ないなど、マイナスの特徴も存在する。24時間営業のコンビニエンスストアは、生活の補助として役立つほかに、防犯効果もあると考えている。私は、なぜコンビニエンスストアが少ないのか、という疑問を持った。 今後の勉学のヒントとして「あるものばかりを見るのではなく、ないものにも注目する必要がある」と思った。また、実際に街を歩くことによって、ネット上に交錯している情報よりも微細なことまで気付くことができると思った。
1124	今回の学外活動で観察できたことは、私たちが歩いた道のほとんどに緑が絶えず、生い茂っていて居心地の良さが感じられた。また集合住宅が密集したこの近辺には大型ショッピングモールや駅、公民館など暮らしを快適にする施設が設けられていた。 今回の活動で俯瞰的にかつ細かく観察することを学べた。これらのスキルを今後の自学にも生かしていきたいと考えている。

1125	駅をはさみ①方面はまさに団地といった集合住宅が多くまた坂も多いように感じた。それに加え、住人の年齢層も比較的高いように調査を通して感じた。一方、⑨方面は新しい戸建ての住宅が多く、住人の年齢層も低いように感じた。その差の原因の１つとして、①方面にはコンビニや自動販売機といったものが全く見当たらなかったが、⑨方面はコンビニや自動販売機といった利便性を求める若者に合わせたまちづくりとなっていることが挙げられるのではないだろうか。また、①方面は駅まで出なければ買い物をする場がなく、また距離も遠く坂が続くため、高齢者にとっては非常に厳しい生活環境であるように感じた。
1126	実際に地図で見るだけでなく自分の目で見て歩くことでゆっくりと街を眺めることができ、地図にはない色々なことに気づくことでできるので良いと思った。
1127	高の原駅周辺や高の原駅前のショッピングモールには人が多くいるのが感じられるが、少し歩いた先の団地や住宅地は静かで人通りのあまりない印象を受けた。また、今回フィールドワークを行なった地点の周辺にはコンビニエンスストアや自動販売機といったものはほとんどなく、駅前のショッピングモールが繁盛している理由が分かったのと同時に、コンビニエンスストアがあれば周辺の住民は楽なのではないか、またコンビニエンスストア自体も繁盛するのではないかと疑問に感じた。なぜ、高の原駅周辺の住宅街にはコンビニエンスストアがないのか、また他の地域の住宅街周辺も同じようにコンビニエンスストアがない、または少ないのか調べてみたいと感じた。このように実際にフィールドワークを行うことにより、気付くこと、疑問に思うことが見つかることが分かり参考になった。
1128	高の原駅から歩き、京都と奈良との県境を多く見つけることができ、自分がまわった目的地②、③、④など奈良市は整備などに力を入れていないのかと思った。またショッピングセンターの交差点にも県境がありそこから奈良市と木津市の道路の違いに気づいた。木津市の方が新しかったと思う。このように、歩くことで県によっての違いがわかり、とても面白くいい勉強になったと思うが、行く前にあらかじめその現地について学んでいた方がなお学べると思った。
1129	県かつ市の境界を徒歩で廻ったことで、足元や周りを見渡すことが多かった。そのため、普段であれば注視しなかったであろう草木に関する表示や、道路にある県境の小さな印を見ることができた。県境の印に関して「県境は直線ではなく、曲線の箇所もある」という、漠然とわかってはいたことが印を辿って歩くことで思考と論理が体感によって繋がったと感じた。さらに、県境の道一本を隔てて京都府側には歩行者通路にガードレールが設置してあり、草花の植え込みがあったが、奈良県側にはガードレールはなく木の植え込みがあるだけであった。ここから、行政の街づくりに関する介入の違いを感じた。また、UR住宅都市では建物の外観や造り、その他の通路の植え込みなどが様々なコンセプトから構成されていることがわかった。そして、境界があることによる土地利用の問題やそれへの対策として建物が建設されていることもわかった。 机上で学ぶだけでなく実際に足を運び、見て人の話しを聞き体感することで、わかっていたことでも新鮮に感じ活き活きとした学びに変わると感じた。自ら赴いて体感するということを今後の学びにも活かしていきたい。
1130	先生に連れて行ってもらい、自分達だけでは気づけないであろう特徴を教えてもらい、どういうところに注目して観察するべきかを学んだ。今回の歩いた高の原コースは、京都と奈良の県境にあると言うことで、京都と奈良の違いが見えた。マンションをみても、すぐ近くに建っていても京都と奈良に分かれていると言うことで外観が違っていた。歩道も段差があったりなかったりと、違いが出ていた。都道府県によって物の作りは少しずつ違っていることがわかり、これにはその地域の地域創造の特色が出ていると考えた。それぞれの特色にはどのような意味があるのか考え、理解し、他の地域の発展にも繋がると考える。
1131	ニュータウンということで予想通り見かける住民の多くが高齢の方だった。訪問した日が平日で付近に高校が位置することもあり、夕方頃には学生の姿も頻繁に目撃した。高の原駅周辺には複数の商業施設が立ち並ぶ。大型ショッピングモール、イオンのなかにはアパレルショップなどの専門店の他、スーパーや医療施設などがある。イオンの他の施設にもスーパーや病院があり、周辺住民は駅周辺施設で、必要なものがある程度揃うようになっている、というニュータウンの特徴がみられた。同じく駅周辺に位置する北部会館には、福祉センター、市民文化ホール、図書館が併設されている。この会館では体操やコーラス、かるた会等が行われる場所であり、主に高齢者の利用を目的としていると考えられる。高齢化が進むニュータウンにおける高齢者向けの施設は周辺住民の満足度向上に大きく貢献しているだろう。今回訪問した高の原周辺は奈良県奈良市と京都府木津川市の県境に位置する。イオンモール内の床のタイルにも県境が記されていた。小松原教授の引率で県境周辺を調査し、奈良側と京都側での違いが確認できた。その中でも特に、同じ１本の道路であっても、京都側にはガードレールが設置され、

	綺麗に整備されていたり、同じURの集合住宅でも奈良側と京都側では方針の違いにより景観が全く変わっていることが面白いと感じた。
1132	普段、観光地や都会しか歩くことがないので、緑地や団地を歩くことで普段見ない景色を見れたり、ベットタウンという授業内の言葉でしか聞いたことがなかった場所を実際に自分の目で見たことで、これから観光などの話をするときにイメージしやすくなった。
1133	今回の学外実習では、住宅街といっても様々な違いがあるということがわかった。一つ一つの家の形や全体の雰囲気などその場所によって違う。また住宅街の中には広場もたくさん見られた。しかし、どれもがあまり手入れされていないものであり、手入れが追い付いていないという印象があった。さらに住宅街は坂が多く、歩行者の安全のために車や単車などが禁止されている道も見られた。また駅の周辺には様々な商業施設があり、とても便利な空間となっている。北部会館には市役所の出張所や老人ホーム、図書館が入っていてとても便利になっている。また奈良県と京都府の県境はあまり分かりやすくなかった。地面に案内のための文字がかいてあり、県境を知らせる看板もいくつかみられた。
1134	去年は講義の関係で自分の実家から近い団地を調べた。それを踏まえて高の原周辺の団地を見てみると、違う点も多く見受けられた。そして実際に歩いてみて多くの疑問がわいた。例えば、公園と名が付いているのになぜ遊具がないのか、県境の団地というのは人々にどういう意識を与えているのか、それぞれの団地がほぼ密接しているという状況で団地間でやり取りはあるのか…今回は地元の人に話を聞くことは出来なかったが、機会があればこの疑問を払拭したいと思った。疑問以外にも驚くことがあった。前にも述べた歩道と車道の独立と、出張版市役所の存在である。歩道と車道を明確に分けるという発想はなかったため、かなりの衝撃をうけた。市役所はいわゆる郊外に人が集まっている地域ならではなんだろうなと感じた。県境だから、住民票などもさぞかしややこしいのではないかとも考えた。
1135	奈良市北部会館の中には市役所の出張所や老人福祉センター、図書館や文化ホールなどの各種施設が集まっていた。住民からすれば非常に便利な施設だろうなと感じた。高の原周辺は大型ショッピングモールや各種施設が集積していた。また、団地や住宅が多かったことから、高の原はベッドタウンであることが伺えた。緑地や公園が多く見られたのもそれが理由であると考えられる。地形的特徴としては、非常に坂道が多く、徒歩や自転車での生活は少し辛いのではと感じた。また、ショッピングモールの中に県境があるなど、非常に面白い発見もあった。